

令和3年度第4回 尼崎市生涯学習審議会 会議録要旨

日時	令和4年3月15日（火）午後2時から午後4時15分まで
場所	尼崎市中央北生涯学習プラザ 3階小ホール
出席者	(委員) 足立委員、江田委員、大槻委員、田井委員、田中委員、中西委員、久委員、松岡委員、松村委員（1名欠席）

■議事概要

1 開会にあたって

傍聴者の確認

傍聴2名

2 市長より挨拶 本日のテーマに関する問題提起

◆市長

本日は、年度末のお忙しいところお集りいただきありがとうございます。この審議会は他の審議会とは違った形で進めてきており、実りの多い審議会です。審議会委員の皆様にご意見を聞いてもらい、アドバイスをいただいて非常に感謝しています。

これまでの尼崎市生涯学習審議会で各地区の生涯学習プラザ、各地域課の様々な思考錯誤を聞いていただき、アドバイス、全体の取りまとめについての方向性に関するご意見をいただいていた。私達が地域で実践しながらでしか学べない、そういった学びを大事にするために、それを評価するための着眼点を間違えたらいけないということで、着眼点についての議論も深まってきていると感じている。

本日は、各地域課、各生涯学習プラザのバックアップ機能、ハブセンターの役割である生涯、学習！推進課に焦点を当てたい。この課は「あまがさき、ひと咲きプラザ」にあり、旧聖トマス大学の跡地や建物を活用して「みんなの尼崎大学」という学びのプラットフォームの事務局機能や交流のための拠点機能を担っている。

また「あまがさき、ひと咲きプラザ」では、青少年や子ども達の学びと育ちを支える機能を、教育委員会と連携してすすめている。例えば不登校の子供達の学びの場や居場所づくり、ユースの子供達の取り組みの拠点機能が「あまがさき・ひと咲きプラザ」で、生涯学習プラザはそのサテライト機能を担っている。そのような連携の関係があることから、名称にどちらも「プラザ」と付けている。

生涯学習という言葉について、通常は「生涯学習」と呼ぶと思うが、私は「生涯、学習！」と呼んでいる。生涯学習という概念や言葉は、社会教育をやや広げる形で出てきたと思われるが、個人の学びは、誤解を恐れずに言えばやや「サロン」的なイメージが世間的にあり、社会教育の軸からは少しずれたり、広がったりしているという問題意識を私は

持っている。

私は、尼崎がシチズンシップ、市民の力を輝かす取り組みをしたいという思いがある中で、昔は公民館が無料であったものを行政改革で有料化することで、公民館事業が通常の貸館事業になってしまっているのではないかというのがもうひとつの問題意識である。公民館グループの方に話を聞いたりいろいろと参加した中で、市民がシチズンシップを高めるためであるはずの公民館が、職員側も「これは規則だからダメです」となってしまったり、政治的中立性の観点とあって、政治的に論争しているところ全てを門前払いすることが中立なのかという問題意識がある。生涯学習プラザはいろいろな両論、多角的な意見に触れられる場であってほしいと思う。SNS等では、自分と同じ考え方の人とばかりやりとりを深めてしまう傾向にある。そうではなくて、様々な角度から学ぶことができる、そういうことにチャレンジしていかなければならない、ますますそういうニーズが高まる時代なのに、規則だからできないとなってしまうことが多々ある。

こういう状況を踏まえて抜本的な取り組みのギアチェンジをしてきたと考えている。地区会館に出先機関である支所の機能を追加し、この地区会館と公民館を同じ位置づけにした。公民館は飲食禁止となっていたが 飲食を含める方がいいイベントも中にはある、であれば、なぜダメなのか、どのような場所ならOKとするべきなのかということをもみんなで悩みながら考えて、もし問題があった場合はそこから学ぶということが公民館の神髄のはず。しかし、それができていないのはおかしいことだと思うので、それができる場所を作っていきたいという考えのもと、6つの地区会館、6つの公民館を生涯学習プラザとして再編したものである。

再編時に社会教育部門の公民館を市長部局に移すにあたり、教育委員会から人権教育、平和教育、これまで地道にやってきたこれらの大事なことを、ちゃんと続けていってもらえるのか、市長部局に移管しても大丈夫なのか、というご懸念をいただいた。そういった中で、教育委員会と市長部局の共通言語として「生涯学習」という言葉をいろいろな思いもありながら使っていくこととした。

私達は学校だけではなく、生涯学び続けるという強い思いを、表現するためのアクセントとして考えたのが「生涯、学習！」である。「生涯学習」と読まずに「生涯、学習！」と呼んでほしいという思いでこの名称にした。生涯、学習！推進課は正式名称で、「、」「！」を付けた。私達はこの課を通称「！課」と呼ぶこともある。このような事をおひとりおひとりになかなかお話しできないし、本来であれば「尼崎市生涯、学習！憲章」のようなものを市民の皆さんと作り、尼崎を「生涯、学習！」のまちにしたいという思いはあるが、なかなか進んでいないというのが現状だ。

本日、委員の皆さんには生涯、学習！推進課のこれまでの取組についてご審議いただきたい。生涯、学習！推進課のこれまでの取組を報告し、生涯、学習！推進課と生涯学習プラザに来られる方、生涯学習プラザには来ていないが、まちじゅうキャンパスとして活動

されている方と、どのように生涯学習の精神（生涯、学習！）を共有していくかということも議論したい。

その中のひとつの仕掛けとして「みんなの尼崎大学」というプラットフォームの取組を実施している。ただ、「みんなの尼崎大学」と生涯学習プラザの取組がまだ十分に繋がれていないという課題があり、今まさに試行錯誤、チャレンジをしているという状況である。本日はそのあたりを中心にご意見、アドバイスしていただきたいと考えている。

また、尼崎市では現在、総合計画の改訂作業を進めている。私達はこの総合計画を行政の縦割りを超えるツールとして位置付けたいということで、分野ごとに組織も必要に応じて合同で振り返りをし、PDCAサイクルをまわす仕組みを作っている。

この新しい総合計画の作成において、施策の体系を再構築しようとしている。一番大きな部分としては、この総合計画の13施策の中で、一丁目一番地を「地域コミュニティ・学び」とすることだ。現時点での尼崎市総合計画は、施策1が「地域コミュニティ」となっていて施策2が「生涯学習」、施策3が「学校教育」となっている。学びとコミュニティについては、オペレーションシステムのOSのようなイメージで、「こども・子育て支援」、「人権尊重・多文化共生」、「地域福祉」、「地域経済・雇用就労」「都市機能・住環境」等全ての土台になっているとイメージしている。

施策1の「地域コミュニティ・学び」の中には公園の運営や道路の整備も出てくるかもしれないし、人権をどうすすめていくかも出てくるかもしれない、環境問題についてが出てくるかもしれない。全てのことがここに出てくるので、これは横申しだということで施策1に統合していきたいと考えている。

施策1「地域コミュニティ・学び」の展開方法としては、（1）生涯学習の推進・地域コミュニティの醸成、（2）まちの魅力を高める文化芸術活動の推進、（3）歴史遺産の継承と学びの充実、（4）スポーツに親しむ機会の充実、がある。尼崎市では公文書館機能と博物館機能を兼ね備えた歴史館をリニューアルオープンした。そういった民主主義の基盤となるようなインフラ整備についてもしっかり進めていきたいと思っている。図書館と博物館と公文書館の連携、総合文化センターとの連携も繋がりながら進めていきたいという思いもある。現状では繋がりがきれていないので、総合計画で1つの施策にまとめて振り返りをし、一緒に計画を実行していくなかで繋がりを深めていきたいと考えている。

社会教育委員会とか、図書館の運営審議会に関わってくださる様々な方は、色々な場所で活動しているが、お互い情報を共有する機会が少ないと感じている。予算も限られている中で、どうやったらもっとうまくできるかを、相談し協力すればやれることがもっと増えるのではないかと考えている。

尼崎市生涯学習審議会についても、部会制にしてそこからいろいろな人が集まって情報共有するような形に発展した方がいいのか、どのような任務を担っていくのが適切かとかを、皆様に意見をいただきながら決めていきたいと考えている。

本日はこのような話まで時間が取れるかはわからないが、尼崎市生涯学習審議会がベースのプラットフォームと考え、みなさんをもっと見える化して、繋がりがやすくなるような

形にしていきたいと考えている。そのあたりもご意見お願いしたい。

3 生涯、学習！推進課のR3取組振り返り（審議）

- (1) 尼崎の生涯学習の精神（生涯、学習！）の市民との共有について
- (2) 各生涯学習プラザとの連携について
- (3) 尼大の取組について

○委員

ありがとうございました。私達も市長の思いに添えながら審議をしていきたいと思う。本日のメインテーマである、生涯、学習！推進課のR3取組振り返りについて、何をやった、何回やった、何人来たという振り返りではなく、深い所に目的、目標があるので、そこへ向かって今年度はどこまでいけたのかというような評価を市職員も行っていただきたいし、私達尼崎市生涯学習審議会委員もそういった評価の仕方ですすめていきたいと思う。それでは各グループに分かれて審議を進める。

4 全体共有・議論

○委員（小グループ代表）

本日の審議で一番ポイントだと感じたのは、みんなの尼崎大学と生涯、学習！推進課がどういう関係をもってこれから施策をすすめていけるかどうかだ。

何が足りないのかを話をしていく中で、尼崎市職員がどんどん変わっていくことが施策を変えていくことに繋がっていくことになるが、それだけを指標にしていくとどこまで進んでいくのかわからないようになるので、みんなの尼崎大学や生涯学習プラザでの活動がどのような意味を持っているかについて考えながらやっていかないといけないと感じた。

また、このような活動をしていても広がりが出てこない、いわば固定化について話し合った。人も固定化し、目標も固定化し、活動も固定化する危険性がある。例えば、みんなの尼崎大学が、学びと地域づくりを一体化させているのが機能しなくなる危険性がある。そういう意味では人と活動の流動化を促進していくための、みんなの尼崎大学のプラットフォームとしての役割、どのような内容にして、どんな人と人が出会うのかという方法論については、良いと思う。

ただ、具体的にどんな所をやっていくかについては、行政と市民が繋がっていく、もつと言うとみんなの尼崎大学の個性は、みんなが平場で話ができるということだけではなくて、尼崎市の市政と接触できる最先端の場ですよ、ということが売りなのかもしれない。そのためにもどのようなコンテンツができるのかということ、あまがさき・ひと咲きプラザで何人か選んでいただき、生涯学習プラザで何人か選んでいただき、みんなの尼崎大学教授会を作り、カリキュラムやコンテンツを作っていくようなスタイルはどうかと思った。

みんなの尼崎大学がプラットフォームだということをもっとしっかりと前面に打ち出していくべきだという話になった。みんなの尼崎大学を、ほかの課や、生涯学習プラザをも

っと活用して、行政だけでなく、地域住民がどのような行政の人と繋がりたいかということを選べるようにしていく、そうすることで社会保障系、産業振興系のテーマもどんどん出てくるのではないかという話になった。

また、人権を扱う時のテーマが、ハンセン病問題等特定のものが全面に出てくるのはどうかという意見が出た。人権というのは幅広く様々なテーマと場面がありますので、そのあたりも含めた方が良いのではないかという意見も出た。

そのほかには、子どもがもっと軸になると、もっといろいろな人が繋がる多様性の突破口になるのではないかという意見がでた。子どもを軸として学校と地域がもっとコラボレーションする施策は国も推進している。子どもが一つのポイントになると思う。お年寄りも子どもが好きだし、子どもがいるとほぐれるものである。そのような事をもっと取り入れていければいいのではないかと思う。

○委員（小グループ代表）

公民館が無くなることを危惧する議論があり、その時に公民館が無くなるのではなく、12個の生涯学習プラザになるというイメージだという話を聞いた。シチズンシップの意識を持つ時にみんなの尼崎大学は大切だという話や、そもそもみんなの尼崎大学についてあまりよく知らないのもっと知りたいという話になった。

市民の立場からすると、そもそもシチズンシップという言葉がよくわからないのではないかという話になった。シチズンシップについての講座の依頼があり、講座をしたことがあるが、その時にシチズンシップという言葉を使うとその言葉を知っている人だけしか集まらないので、地域の人で気になる課題や、困っていることを出し合い、1か月間だけみんなが地域に出て、それを解決するための1か月を過ごそうという企画をして活動後は発表会を実施した。

実は、この活動そのものがシチズンシップであり、実際の興味関心がある中で行動したことだけしか理解できないのではないかという話になった。自治についても同じで、自治をやりたいとは意識していないが、活動を通じての講座等を実施することで自治について考えることができる。

また、周知についての問題について話し合った。例えば、PTAだと子どもが小さい時は話が入ってくるが子どもが大きくなると全く情報が入ってこなくなるのが課題だという話になった。

ほかには、尼崎市内でも地域差があり尼崎市社会福祉協議会の活動が盛んで、そこを通じて地域住民と繋がれているところもあれば、そうでない所もあるという話になった。

みんなのサマーセミナーのような、誰もが講師になれたり、生徒になれる企画を、地域の企業が講師となり地域の方に教えてくれるということがたくさんあれば、生涯学習プラザの事をよく知らないという人に、知る良いきっかけになるのではないかという話になった。

また、地域でのイベント時に、開催に向けては一丸となって協力して進めていくが、そ

の後の発展は無く、イベントが終わると関係が途切れてしまう話になった。ただ、何が効果を生むかというのは、わからないという話にもなった。例えば、20年前にやったイベントを覚えていて再度来てくれる人もおられるので、1回でも生涯学習プラザに来たことがあり地域課の人を知っていると、イベントに参加したことがあるということ自体がとても意味があることだという話になった。

実際に地域の中で困りごとがあるので、地域課の方や社会福祉協議会の方にはもっとその現場に行き、実際の声を聞いてほしいという意見も出た。

そのほかには、地域の方が地域課に地域課題について連絡した場合に、その地域課内では記録され情報共有されているが、ほかの地域課とは定期的な情報共有はあっても、リアルタイムでの情報共有ができていないのではないかという話になった。リアルタイムで情報共有することでほかの地域での解決方法を参考にしたり、成功事例を共有していけるのではないかという話になった。

生涯学習プラザに来てもらおうとするのは、集客のようなイメージになってしまう面があり、難しいのではないかと感じた。魅力のある企画をしようとすると思うが、地域には良い企画を持っている人がいて、活動をしたいと考えている人が多くいて、場所や機会の問題があり実現できずにいる方もおられる方も多い。そもそも、そのような企画の持ち込みができることを市民の方が知らないので、例えば生涯学習プラザに掲示をする等の方法で周知していけばいいと感じた。

○委員（小グループ代表）

このグループでは、ある生涯学習プラザでは職員の方は仕事に真面目に取り組んでいるが、雰囲気暗いところがあるという話になった。例えば、職員の方がもっと元気よく声をかけてくれたら、元気な雰囲気が伝わっていくのではないかという話になった。明るさというのはちょっとしたきっかけで演出していけるという話になった。歓迎するムード作りをすることでもっと生涯学習プラザに来てくれる人が増えるのではないかと思う。また、例えば生涯学習プラザに勉強等で来ている学生に、たまに声かけすることで、繋がりができ小さな声も拾っていけるのではないかという話になった。

プラットフォーム機能を生涯学習プラザで大きな柱として取り組んでいると思うが、地域ではいろいろな所で活動している方がいる。もっと、それらをプラットフォーム機能に活用して、繋いでいければ、地域で活動している方がもっと外に出て活動していけるのではないかという話になった。

5 振り返り・感想

◆市長

本日の生涯学習審議会も非常に有意義な時間となった。ありがとうございます。

このような取組を実施するなかで生涯学習審議会の委員の皆様も、尼崎市がどのような

現状であるかということと、尼崎市では、悩みながらも頑張っているということを宣伝していただけるのではないかと思います。

本日の審議の中で出た話で、本来であれば補い合って補完関係になれる人達が、なぜか対立関係になりやすく、もったいないと感じる部分があるという話になった。そこを無理矢理一緒にしようというのは難しい話だが、お互い対立し合わずに、それぞれの役割があり強みがあることの相互理解をできたらいいと感じた。

知らない人は、フレンドリーに迎え入れるのは難しいと思うので、顔を知っているとか、喋ったことがあるとか、自分の知り合いがその人を知っているだとか、理屈ではないそういった事が繋がりづくりには必要と感じた。

生涯学習プラザに来ている人の声かけの話については、例えば美容院に行った時に店員さんに喋りかけてきてほしい時があれば、そうでない時もあるということと同じと感じた。こういった、マニュアルにできない経験則が地域力のひとつの要素であると改めて感じた。

旧公民館と旧地区会館が12の生涯学習プラザになっているという話であるが、地域課の職員は、その半分の6つの生涯学習プラザに配置されている。地域活動のサポートは、地域課職員がすることになっているので半分の生涯学習プラザには、地域活動のサポートが届いていないのではないかとのご指摘があった。その通りなのではないかと感じた。地域課職員としては、普段いる生涯学習プラザでは、地域活動のサポートをしていけると思うが、もう半分については難しい面もあると思うが、もっと職員が生涯学習プラザに限らず、外に出て行き繋がり作りをしていくことが大事だと感じた。

○委員

大阪市で社会教育委員会議をしていた時に、出てくる資料は、どれだけの数の講座を実施して何人来たということが記載されており、その話ばかりになってしまっていた。

実は、大学や企業や地域のいろいろな所で講座が実施されている。そのような所で講座を受けている人の数は集計できていないという話から始まり、全ての講座を教育委員会がしなくてもいいのではないかと話になった。

大阪市では、イチョウがシンボルマークなので、「いちょうだより」という広報誌がある。そこに市内で実施している講座を、何でも載せていこうという話になった。教育委員会の職員がいろいろな所から情報を集めてきて広報誌に掲載していくことになった。市民としては、市職員が主催している講座でなくても、大学、企業、地域で実施している講座であろうとかまわないと思う。何でも市役所がしなくても、地域と役割分担すればいいと思うので今後活かしてほしいと思う。

○委員

地域課、生涯、学習！推進課にイベントをする時に伴走してほしいと思うが、イベントは土日祝日が多いので、そうなる職員の方が土日祝日に出勤してもらうことになり、遠慮することがある。土日祝日の出勤について、職員の間で捉え方について意識の差が出てくるのではないかと思います。仕事と思って取り組んでいる人や、地域づくりは生涯の仕事と

感じて取り組んでいる方との意識が違うのではないかと感じた。職員も労働者の立場で、市民と伴走していけるような仕組みがあれば、こちらとしても土日祝日について頼みやすくなると感じた。ボランティアで土日祝日に出てきてくれている職員の方もいるので、とても気になっている。

○委員

休日であろうと地域に出ると市役所の職員というのは外せない肩書だと思う。どの職種でもボランティアズムというのは大切な要素と考えているが、休日に地域のイベント等に参加していろいろなメリットがないと続かないと思う。休日にボランティアで出ている職員に市民の方が様々な事を要求すると、その職員は楽しくないと思う。休日に一般市民として来ている職員に対しての関わり方について、市民の方も考えていかないといけないと思う。このような小さな経験を地域で積み重ねてしていくのが大事だと思う。

また、社会教育の幻影にあまりこだわらなくてもいいのではないかとというのがある。人権、平和といのは大事なキーワードであるが、あまり重たく考えなくていいと思う。ウクライナ情勢で、市民の方が大勢殺されたりしていることがニュースとなっているが、そのような多くの人に関心のある身近な事にタイアップできる社会教育であるべきだと思う。

尼崎市は地域学校協働活動というすごい資源を持っていると思う。学校と地域が連携して活動していけるということをアピールしていければいいと思う。

みんなの尼崎大学が、学校と連携するとか、新しい方向性を考えていくのも、職員の力量なのかと思った。

○委員

本日の審議会の中で様々なことを学ぶことができた。市役所が市内の様々な情報を集めて市民に提供していくことが必要なことだと感じた。尼崎の中でも私立大学が何校もあり、そういった所の社会人向けの講座を知らない方がおられるので、合わせて発信することで、尼崎市を全体で学びをやっているという意識づけになると感じた。

○委員

本日の審議会の中で様々なことを学ぶことができた。みんなの尼崎大学については、あまり知らなかったのでピンと来ない部分もあった。プラットフォームとしてみなさん認識されているのか？と感じた。みんなの尼崎大学はテーマ型のプラットフォームといったイメージは持っている。あまがさき・ひと咲きプラザがハブであり、生涯学習プラザがサテライトであるという認識がどこまでされているのだろうか疑問だと感じた。

職員の休日の出勤については、仕事と捉えても問題ないかと感じた。地域のイベント等に参加して、楽しめるかどうかだと思う。それには、市民と顔の見える関係になり、人と人との関係になっていく必要がある。

○委員

尼崎市生涯学習審議会に参加すると学びがあり、尼崎市がどのような方向に進もうとし

ているかがわかる。みんなの尼崎大学のコンセプトの、みんなが先生、みんなが生徒というコンセプトからすると、私はコミュニティスペースで学習活動をしていて、それも全てみんなの尼崎大学であると考えている。

本日の資料に、みんなの尼崎大学の入学願書があるが、尼崎に住んでいる人は全てみんなの尼崎大学の学生であると考えて、尼崎市へ転入された方に学生証を渡すのが良いと思った。市民は全て、みんなの尼崎大学の大学生として捉えることで生涯、学習！の精神が活きてくるのではないかと思う。社会人になっても学ぼうとする姿勢は常に必要であり、何が足りなくて何を学ぼうとするかを考えることがすごく大事と思っている。

○委員

私は、本日の資料のみんなの尼崎大学の入学願書をいただき非常にうれしかった。学生証の発行を依頼するつもりである。これまで恥ずかしながらみんなの尼崎大学について知らなかったが、本日の生涯学習審議会を通じて知ることができたので、友達を誘って参加したいと思う。今の目標としてみんなのサマーセミナーで講師をすることだ。

○委員

3月19日（土）～3月27日（日）まで尼崎アートストロールというアートイベントが実施される。貴布禰神社も展示場所となり長さ11mのオオサンショウウオと、長さ3mの鉄のアート作品が展示されます。尼崎アートストロールは市が中心となって企画されているが、この期間中にいろいろな事をしたいという市民の方がどんどん来られている。これが尼崎の市民力だと考えている。

他市の社会教育委員の方から、尼崎市のイベント等について話すと、このイベントを市民主体でやっているのかと驚かれることが多々ある。尼崎市では市民力があるので、市政100周年の時も市民主体で実施することができたと思う。その市民力を活かして行政がサポートするとより良いものができていくと思う。

○委員

生活協同組合には学びが多いのにも関わらず、生活協同組合の方が地域のタウンミーティング等に行くと、なぜか遠慮してしまっているという課題を感じていたが、この場でその課題について相談できて良かったと思う。

市民全員にみんなの尼崎大学の学生証を配布するというのは、私もあなたも、みんなの尼崎大学生という仲間意識ができて良い案だと思った。遠慮を取り除いて人を巻き込んでいくための、何かがあれば良いと感じた。

本日の生涯学習審議会でも、地域課の方と顔見知りになることができて良かった。

○委員

地域課の方は、みなさんまじめな方が多く良い人ばかりだと感じている。本日の生涯学習審議会では、もったいないという言葉がたくさん出た。そのもったいないという言葉は、願望や理想があって、もったいないという言葉になる。地域学校協働本部のコーディ

ネーターをされていて、学校と地域課のどちらにも程よい距離感で何でも言えて、何でも相談できるので、今後についても何でも相談してほしいと思う。

○委員

先ほどシチズンシップという言葉から入るとなかなか難しいという話があったが、私もその通りだと思う。宝塚市で協働指針を作成したことがある。その時に2年間協働についての議論をして作成した。その最後に地域団体の会長が、「協働というのは、よくわからなかったが、私達がやってきたこと、これが協働やったんだ」という感想を話をされた。その「これが協働やったんだ」という言葉を、協働指針のタイトルにした。このような流れが基本だと思う。

つまり最初にシチズンシップという言葉を出すのではなく、いろいろと話しをしていき、最後に実は、それがシチズンシップだという流れにしていくことが良いと思う。せっかくみなさん良い企画をしているのに最初の一言で誤解を招いて、市民の方の足を遠退けさせてしまっているのはとてももったいないことだと思う。入口、言葉遣いを気にしてもらい、最後に参加者に気づいてもらうという仕掛けができていけばいいと思う。

本日は、ありがとうございました。

◆課長（事務局）

令和4年度の尼崎市生涯学習審議会の日程についてですが、令和4年7月29日（金）午後7時からを予定している。本日は、ありがとうございました。

以 上